

4 交通機関として民鉄が担う役割

4-(1) 民鉄が担う役割

大手民鉄は、次のような役割を果たしています。

①公共交通機関としての役割

通勤・通学、買い物、通院等の社会生活のために必要な交通手段として、事故等の防止のため、立体交差化等の整備を進め、鉄道は「安全で安心な輸送を担う役割」を果たしています。

社会に必要なとされる鉄道網の整備を進め、相互直通運転等を通じ、鉄道ネットワークを形成していくとともに、バリアフリー対応等の輸送サービスを向上させることにより、鉄道は「鉄道ネットワークを形作り、利用者サービスの向上に資する役割」を果たしています。

②観光立国を支える役割

観光は我が国の重要な成長分野です。国内旅行及び訪日観光の振興のため、観光地・空港等との輸送を通じ、鉄道は「観光立国を支える役割」を果たしています。

③「ひとと環境にやさしい鉄道」としての役割(カーボンニュートラルへの対応)

2050年カーボンニュートラルに向け、CO₂等の排出削減に向け様々な取り組みが進められています。鉄道は自動車と比較し一人当たりの輸送に当たってのCO₂排出量が少なく、「ひとと環境にやさしい鉄道としての役割」を果たしています。

④まちづくりに貢献し、産業・生活基盤の向上に資する役割

鉄道の建設・整備に併せた沿線の宅地・商業地等の開発や駅周辺の再開発等を通じ、鉄道会社は「まちづくりに貢献し、産業・生活基盤の向上に資する役割」を果たしています。

⑤地方創生、地域の足としての役割

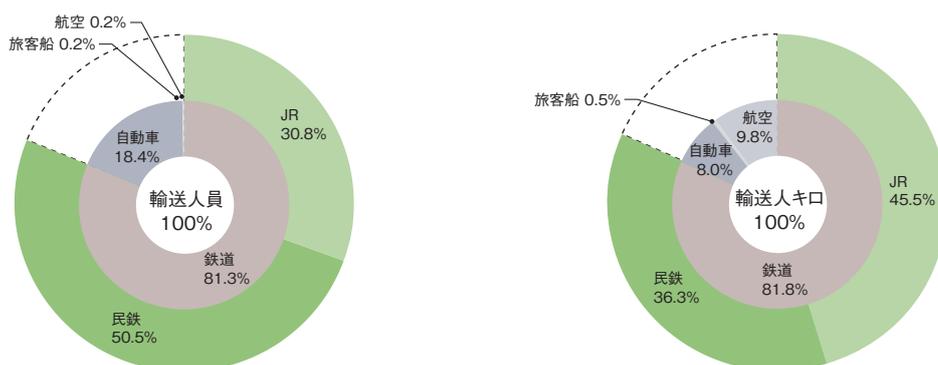
人口減少・高齢化が進む地方部を活性化していくことが求められています。地方部の通勤・通学等の社会生活のため必要な交通手段として、また、地方部と都市部との交流のため、鉄道は「地方創生、地域の足としての役割」を果たしています。

本データブックでは、大手民鉄が都市部において運輸業を通じ担う役割のうち、①～③について記載しています。

4-(2) 旅客の公共輸送機関別分担率

2020年度の国内旅客輸送における民鉄の輸送分担率は輸送人員ベースで50.5%、輸送人キロベースで36.3%を占めています。環境保護やエネルギー効率などの面から、公共交通機関の利用促進が求められているなか、民鉄が旅客輸送の重責を担っていることが読み取れます。

旅客の公共輸送機関別分担率(2020年度)



※円グラフの割合は、四捨五入のため、合計は必ずしも100%にならない。

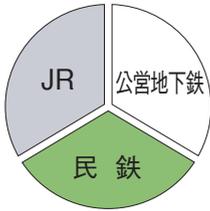
資料:国土交通省「数字でみる鉄道2022」

4-(3) 民鉄の輸送人員の割合(三大都市圏)

東京・名古屋・大阪を中心とする三大都市圏の鉄軌道の年間輸送人員(2017年度)は約219億166万人(1日平均約5,988万人)で、そのうち民鉄の占める割合は、首都交通圏で37.4%、中京交通圏で40.9%、京阪神交通圏で46.1%となっており、大都市圏の基幹的な交通機関として、大きな役割を担っています。

三大都市交通圏の交通機関別鉄軌道輸送人員の割合(2017年度)

■凡例



首都交通圏の輸送人員

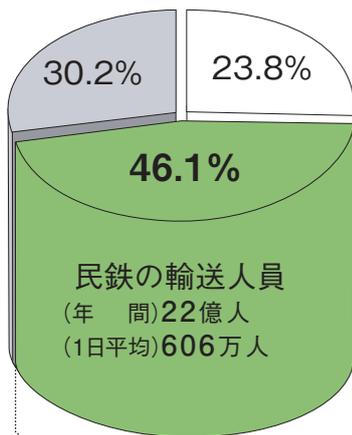
(年間)158.6億人
(1日平均)4,346万人



民鉄の輸送人員
(年間)59億人
(1日平均)1,628万人

京阪神交通圏の輸送人員

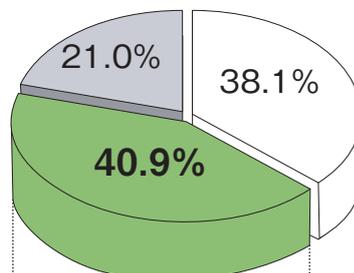
(年間)47.9億人
(1日平均)1,314万人



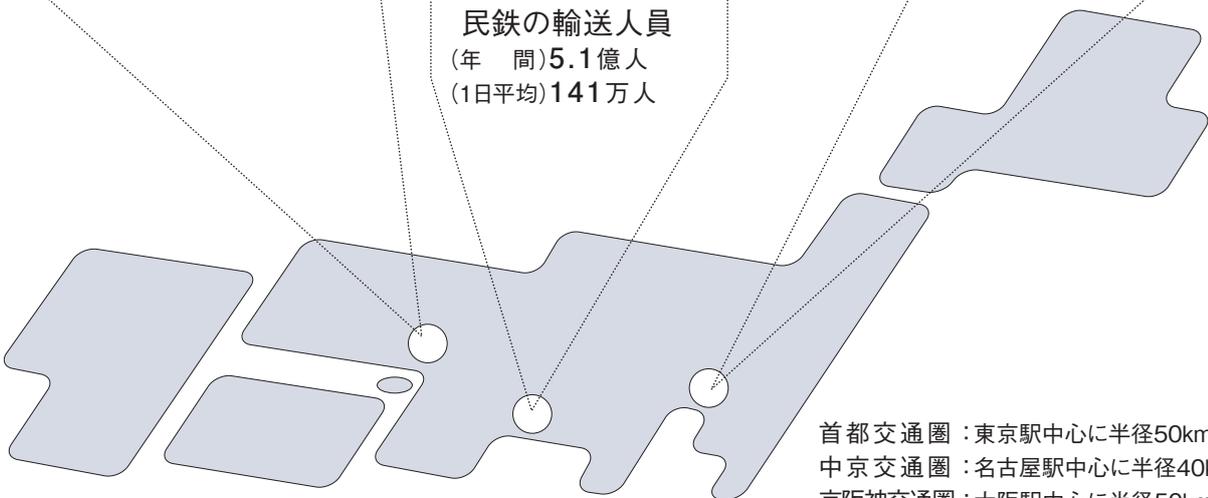
民鉄の輸送人員
(年間)22億人
(1日平均)606万人

中京交通圏の輸送人員

(年間)12.6億人
(1日平均)345万人



民鉄の輸送人員
(年間)5.1億人
(1日平均)141万人



首都交通圏：東京駅中心に半径50km
中京交通圏：名古屋駅中心に半径40km
京阪神交通圏：大阪駅中心に半径50km
・但し、特に交通不便な地域およびその大半が圏外にある行政区域は除外
・新幹線を除く

資料：(一財)運輸総合研究所
[平成31・令和元年版 都市・地域交通年報]

※円グラフの割合は年間の人員による。
※四捨五入のため、合計は必ずしも100%にならない。
※東京メトロは公営地下鉄に含む。